

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

地域社会への貢献

GRI102-11 GRI103-1 GRI103-2 GRI203-1

地域社会への貢献の方針・考え方

日産は、自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することに加え、その特徴を生かしながらコミュニティの一員として主体的に社会にかかわり貢献することも、企業の重要な使命だと考えます。

企業がさまざまな資源を地域社会に提供し、コミュニティの活性化や課題の解決に積極的に参画することは、企業市民としての責務を果たすだけでなく、企業活動にとっても有益であり、より良い事業環境や持続的に成長する市場を生み出すことにつながります。

日産は、複雑化する社会課題に対応するため、非営利組織（NGO・NPO）や行政などさまざまなステークホルダーと連携し、相互の強みを生かしながら活動を展開しています。こうした社会貢献活動の方針をグローバルに共有するとともに、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国の事業拠点や関連会社による独自の取り組みも行っています。

地域社会への貢献の取り組み

日産は2017年に社会貢献活動の方針を見直し、「環境」「交通安全」「ダイバーシティ(多様性の尊重)」の3分野において重点的に活動を推進していくことを決めました。自動車メーカーとして真摯に取り組むべき「環境」と「交通安全」に加え、企業として重んじる価値観として「ダイバーシティ」を推進することで、「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指します。

活動の実施においては、金銭的な支援だけでなく、自動車メーカーとしての知識や専門技術、自社製品、関連施設の活用など、日産が事業を通じて培った資源を十分に生かし、独自性の高い活動を展開します。

活動をより実効性の高いものにするため、日産は、活動分野において高い知見と専門性を持つNGO・NPOとの対話と協働を重視しています。

また、多くの従業員が社会に関心を持ち、活動に自発的に参加できるように、従業員の社会貢献活動をサポートしています。

「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指して



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-2

地域社会への貢献のマネジメント

日産の生産拠点はグローバルに拡大し、事業を推進するうえでコミュニティとのさまざまなかかわりが生じています。日産では自社の経営資源を提供してこれらのコミュニティの発展に貢献することは、事業環境の向上や市場の成長にもつながると考え、積極的に社会貢献活動を実施しています。活動に当たっては、グローバル方針を決定し、各地域で実行しています。

現在は、2017年に改訂した方針で定めた「環境」「交通安全」「ダイバーシティ」の3つの重点分野を中心に、それぞれの地域のニーズに応じて、多岐にわたる活動を展開しています。

推進体制

グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティ*などで議論・決定された日産の社会貢献活動方針はグローバルに共有され、各国・地域の活動もこの方針に沿って実行されます。

* グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティについては以下のページにも記載しています

[>>> P032](#)

社会貢献プログラムの活性化に向けた3つの重点分野

重点分野「環境」

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境負荷削減に意欲的に取り組んでいます。社会貢献活動においても「環境」への取り組みが重要であると考え、地球環境問題への理解を深める教育プログラムの実施など脱炭素社会の実現に向けたさまざまな活動に取り組んでいます。

2017年より、国際的な環境保全団体とのパートナーシップを強化し、環境NGOコンサベーション・インターナショナルとの協働によりインドネシアで森林保全プログラムを実施したほか、環境保全団体のWWFジャパンが主催する環境啓発キャンペーン「Earth Hour 2021」に協賛し、気候変動分野での教育・啓発活動に取り組んでいます。

重点分野「交通安全」

日産は、自動運転技術の搭載をはじめとするクルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者の安全意識を高める啓発活動や、子どもや高齢者といった社会的弱者を守る取り組みも実施するなど、交通安全の推進に取り組んでいます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

重点分野「ダイバーシティ(多様性の尊重)」

日産は、ダイバーシティを企業の競争力を高める重要な要素と捉え、経営戦略のひとつに位置づけています。社会貢献活動もこの考えに則り、貧困の削減、社会的・経済的に恵まれない人々への支援、自然災害による被災者への緊急支援などを実施しています。また、国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働で人道支援活動に取り組んでいるほか、2020年も国際NGO ケア・インターナショナル ジャパンとのパートナーシップを継続し、タイで行っている教育プログラムの活動を拡充しました。

事業を営む地域への貢献

日産は、事業を行う地域の一員として地域社会に積極的にかかわり、地域の方々に、「ここに日産があって良かった」と思われるような良き企業市民でありたいと願っています。地域のイベントに協力するほか、清掃活動など事業所周辺の環境を向上させる活動、自社施設の開放など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。また、従業員もボランティアとして積極的に地域の活動に参加しています。

このような平時における取り組みとともに、世界中で多発する自然災害やパンデミック発生時には、地域社会への支援を行い、社会課題の解決に寄与しています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI201-1 GRI203-2

地域社会への貢献の実績

2020年度の社会貢献活動の実績

2020年度 グローバル社会貢献支出額：約19.9億円

社会貢献支出には以下の費用を含む

- ・社会貢献活動費は社会貢献活動を実施するために支出した経費（労務費は除く）
- ・寄付は社会貢献を目的とした現金寄付および非営利組織の年会費などの支出
- ・現物寄付は金額に換算
- ・スポンサーシップ・その他は社会貢献を目的とした各種イベントなどのスポンサー費

2020年度 グローバル社会貢献支出額(内訳)

	社会貢献活動費	寄付	現物寄付 (金額換算値)	スポンサーシップ その他	合計
金額 (百万円)	821	726	213	232	1,992
比率(%)	41.2	36.5	10.7	11.6	100
	災害名		2020年度実績		
主な 支援	自然災害被災地に対する				
	令和2年7月豪雨 (日本)		<ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車よりNPOジャパン・プラットフォームに活動支援金500万円を寄付 ・日産自動車九州よりNPOジャパン・プラットフォームに活動支援金300万円を寄付 ・日産自動車九州より久留米市社会福祉協議会にマスク4,000枚、経口補水液240本、塩飴20kg相当を寄贈 		
	ビコール地方、カガヤン州 での台風による被災地支援 (フィリピン)		<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン日産より50万フィリピンペソ相当の救援物資を寄付し、フィリピン空軍を通じて800世帯に提供 		

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

環境

日産の特色を生かした環境出張授業（日本、英国、中国）

日本では、自動車製造業ならではの知識や技術を生かした3種類の体験型教育プログラムを2007年から実施しています。いずれも小学校高学年の児童を対象に、日産従業員が講師となって学校を訪問して行います。

そのひとつである「日産わくわくエコスクール」*は、地球環境問題への理解を深めるとともに、日産の環境への取り組みを紹介し、モデルカーを用いた実験や、「日産リーフ」の試乗などを通じて最新の技術を体験するプログラムです。この受講を通じて、児童が環境問題を身近に捉え、日々の生活における自身の行動を振り返ることを目指しています。

好評につき日本での実施回数は年々増加し、開始以来、同プログラムの日本での受講者数は累計で約10万名を超えました（2021年3月末現在）。同プログラムでは小学校を訪問して授業を行うほか、栃木、いわき、横浜、追浜、九州の各工場にあるゲストホールでも講座を実施しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定していた規模を縮小しての開催となりましたが、感染予防対策のためにこれまでの運営を見直し、webカメラを活用した最新技術のバーチャル体験や、DVDでの授業提供、web会議システムを通じたオンライン授業など、さまざまな形で子どもたちの学びをサポートしました。

海外においては、サンダーランドの英国日産自動車製造会社（NMUK）が、小学生から中高生を対象に多岐にわたって教育プログラムを展開する「日産スキルズ・ファンデーション」の1つとして、環境教育を提供しています。「エコスクール」と呼ばれるこの環境教育では、生徒たちは環境問題やNMUKの風力発電の仕組みなどを6時間かけてじっくり学びます。

中国では、日産（中国）投資有限公司（NCIC）をはじめとする合併会社4社がUNESCO中国の協力を得て、インターネットを活用した授業「日産ドリーム・クラスルーム」を展開しています。全部で6モジュールあり、その中の「ECO教室」では、環境についての学習に加え、電動モーターの仕組みを学び、モデルカーを使った実験も行います。

*「日産わくわくエコスクール」に関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/ECO-SCHOOL/>

WWFジャパン(世界自然保護基金ジャパン)環境啓発キャンペーンへの協賛（日本）

日産は、WWF 主催の環境啓発キャンペーン「Earth Hour 2021」に賛同し、同イベントに協賛するとともに、各国の従業員への消灯アクションの呼びかけ、国内外の日産の事業会社で消灯アクションの参加を行いました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

コンサベーション・インターナショナル (CI)との パートナーシップ (インドネシア)

日産と環境NGOコンサベーション・インターナショナル (CI: Conservation International)は、インドネシア共和国バリ島の都市部に水を供給する重要な水源地でありながら、環境劣化が著しいアグン山周辺において、森林を再生する活動を2017年に開始しました。山間部の森林保全を行うことにより、河川流域および沿岸部の環境改善を目指す包括的なアプローチで、行政や地域コミュニティの住民と連携し保全活動を行っています。また、地域住民の収入源の拡大に取り組み、育成した植物を利用した商品の開発、販売ルートの確保を支援しています。



地域住民の収入源となっている、再生森林での養蜂

ユニークな環境教育プログラム「アーバン・グリーン・ラボ」(米国)

北米日産会社 (NNA)は、テネシー州ナッシュビルのNPO法人アーバン・グリーン・ラボ (UGL)を支援しています。同団体は、子どもたちに自分自身の生活に関連づけながら「環境に配慮した持続可能な生活」を考えさせ、学ぶ機会を提供しています。日産の支援に加え、バンダービルト大学内のピーボディ教育大学および環境保護局の協力を得て、UGLは持続可能な生活と廃棄物削減に関して、テネシー州で初となる州規模のカリキュラムを開発。ナッシュビ

ルとメンフィスの公立学校で授業を導入しています。これまでは対面型の授業を展開していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で授業をすべてオンラインで提供した結果、大幅にリーチが広がり、20万人もの生徒に授業を提供することができました。

交通安全

地域の子どもの安全を守る「ハローセーフティーキャンペーン」(日本)

事業所周辺地域における交通安全啓発活動の推進に寄与するため、日産は、日本において1972年から実施している交通安全活動「ハローセーフティーキャンペーン」の一環として、1987年より従業員募金を実施しています。会社からの寄付金を加え、地域



実車を使い運転機能を計測

の交通安全協会や自治体などを通じて、主に各事業所近隣の児童に対し、交通事故防止に役立つ物品を寄贈しています。また、高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発するため、新潟大学とともに、2019年度に「ハンドルぐるぐる体操」を制作しました。本体操は、主に高齢ドライバーが日々の生活の中で運動習慣をつけることにより、筋力と認知力を高めて安全走行できるように支援するもので、日産と新潟大学が共同でコンセプト検討を行い、新潟大学が体

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

操の内容を創りました。また、2021年3月に新潟大学、北里大学、相模女子大学と共同で、ネットワーク上にバーチャル研究所『交通安全未来創造ラボ』を創設しました。高齢ドライバー、幼児・児童、公共交通機関が不足し過疎化に悩む人々、訪日外国人など、生活や移動に不安や不自由を抱えている一人ひとりに寄り添い、交通死亡事故ゼロ、誰一人取り残さないダイバーシティ交通社会を実現することを目的としています。

ダイバーシティ くすべての人に平等な機会が与えられる社会へ

ケア・インターナショナルとの協働による教育プログラム (タイ)

日産は、タイ王国アユタヤ県およびラヨン県において、中学・高校生を対象とした教育プロジェクト「理数系 (STEM) 教育を通じたリーダーシップ育成プログラム」を2017年から開始しました。地域の学校と協働して行う授業では、リーダーシップやチームワークなど、コミュニティの発展を担うリーダーとして必要な資質を身につけるほか、科学・技術・工学・数学 (STEM: Science, Technology, Engineering, Mathematics) の要素も授業内容に取り入れています。また、職業技能訓練も取り入れ、特に女子学生の支援を重視しています。2018年度からは授業実施校にタイ日産自動車会社 (NMT) の事業拠点近郊のサムットプラカーン県の学校を加え、同社の従業員もボランティアとしてプログラムやワークショップに参加するなど、重要な役割を担っています。

2019年度までに、アユタヤ、ラヨン、サムットプラカーン県の10校で1,400名以上の生徒がプログラムを受講し、生徒たちによる60以上のプロジェクトも実施されました。

2020年度から2022年度を第2フェーズと位置づけ、16校1,600名の生徒へプログラムを提供することを目指しています。第2フェーズでは、再生可能エネルギーなど革新的な分野についてもプログラムを拡充していく予定です。



同プログラムで実施したテラリウムプロジェクト

タイでは2021年に入り新型コロナウイルス感染拡大の第2波に見舞われたため、オンラインでのプログラム提供に切り替え、タイで有名なユーチューバー SoftPomz氏によるビデオ制作講座なども開催しました。

ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ (北米)

NNAは、2005年よりNGOハビタット・フォー・ヒューマニティ (ハビタット) との協働を継続しています。同団体は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を理念に掲げ、家を建てたり改修したりすることで、地域コミュニティの活性化を図り、人々の希望を築く国際支援団体です。世界約70カ国以上で住居建築や自立支援に取り組んでいます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で従業員のボランティア参加は見送りましたが、北米における重要な社会貢献活動の1つであり、今後再開の予定です。

また、日産カナダ財団は2008年よりハビタットとのパートナーシップを締結しており、これまでに1,400名以上の販売会社およびカナダ日産自動車会社(NCI)の従業員が9,000時間を超えるボランティア活動を実施し、ハリファックスからバンクーバーまで50軒の住居を建築しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で従業員のボランティア参加は見送りましたが、日産カナダ財団のハビタットへの寄付は累計100万カナダドルを超え、NCIにおける社会貢献活動の重要な成果となっています。

国内事業所での障がい者スポーツ支援(日本)

日産は、2000年より地域関係諸団体との協働運営で車椅子陸上競技の総合大会「日産カップ追浜チャンピオンシップ(全国車椅子マラソンin横須賀)」を開催しています。障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上のほか、地域の活性化と「やさしい街づくり」支援を目的としています。2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施を見送りましたが、今後も障がい者スポーツ支援を継続していきます。

事業所内で車椅子のメンテナンス実施(日本)

開発部門の拠点のある日産テクニカルセンター(NTC)では、2008年より「NICE WAVE活動」と称して、従業員一人ひとりの自発的な地域貢献活動を推奨しています。例年、地域の高齢者施設へ従業員が訪問し、施設で利用している車椅子メンテナンスをボランティア活動として行っていましたが、2020年度は感染症防止の観点から施設への訪問は見送り、車椅子をテクニカルセンターへ持ち込むことで対応しました。通常のメンテナンスに加え、これまでは社外に持ち出せなかった溶接機等を使って細部のメンテナンスを行いました。

モノづくりの魅力を伝える取り組み(日本、英国など)

日産は、モノづくりの楽しさや奥深さを将来世代に伝えたいと考え、さまざまな取り組みを行っています。日本では日産の従業員が小学校を訪れ、モノづくりの魅力を伝える出張授業「日産モノづくりキャラバン」や「日産デザインわくわくスタジオ」*を実施、両プログラム合わせて年間約2万2,000名の子どもたちが受講しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校に訪問することはできませんでしたが、動画によるプログラム提供の準備を進め、2021年度は出張授業、動画授業を並行して実施していきます。

「日産モノづくりキャラバン」は英国のサンダーランド工場でも実施しており、学校の授業期間中は週5日でプログラムを実施し、年間4,500名以上の小学生を受け入れています。

英国では、2014年に日産スキルズ・ファンデーションを設立し、2020年12月

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

までに地域の6万4,000名以上の生徒に、さまざまなプログラムを提供、未来のエンジニアと製造を担う人財の育成を推進しています。

日産スキルズ・ファンデーションは、STEMを学ぶ外部の3つの国際的な教育プログラム「VEX IQ Robotics」、「FIRST LEGO League」、「F1 in schools」に機材や資金、知見などを提供して地元チームを支援しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で対面型の授業はできませんでしたが、2つのバーチャルSTEMプロジェクトを立ち上げ、FIRST LEGO Leagueバーチャルイベントでは80以上の小中学校が、VEX IQ Roboticsには50校が参加しました。また、ステイホーム中の11歳から18歳の子どもたちを対象に、未来のクルマのデザインチャレンジを実施し、25校が参加しました。今後は対象校を拡大し、活動を継続していきます。

*「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」に関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/VISITINGSCHOOL/>

子どもたちや若者への教育支援（中国）

NCICは、小学生を支援する教育プログラム「日産ドリーム・クラスルーム」を2013年から実施しています。授業内容と実施地域を徐々に拡大し、現在では環境、モノづくり、デザイン、塗装、インテリジェントドライビング、自動車文化や工学



インテリジェントドライビング授業の様子

の基礎など、多彩な授業を提供しています。2015年からは中国国内の事業会社計4社で授業を実施しており、年々規模を拡大し、活発に教育支援活動に取り組んでいます。

NCICは「日産ドリーム・クラスルーム」の活動を、日産のディーラー各社のほか、北京自動車博物館や、地元の自動車ショーなどの協力を通じて、さまざまな機会を提供しており、2020年末までに100万名以上の生徒が参加しました。2020年11月にインテリジェントドライビングクラスルームを開講。この授業ではプログラミングしたモデルカーを動かす授業で、運転支援技術「プロパイロット」の技術を子どもたちに分かりやすく伝えており、大変人気の高い授業です。「日産ドリーム・クラスルーム」はオンラインでも開講しており、中国内15の省の700以上の学校で実施されています。中国国内での評価も高く、自動車業界において企業の社会責任を果たす優秀企業を表彰するために、中国の主要経済紙である中国経営報が設定した「中国自動車企業CSR金帆賞」を、2020年11月に受賞しました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

次世代の科学者やエンジニアを育成 (米国)

NNAは米国における教育の取り組みとして、小学校から大学までの学生たちが自動車産業に不可欠なSTEMの4分野に親しむことを奨励するさまざまなプログラムを支援しています。

NNAでは、全米で開催されるロボット競技大会「BEST*ロボティクス」のナッシュビル大会をサポートしています。2020年度はバーチャルイベントとし、学生は各学校の教室から参加し、審査員はLipscomb Universityにて競技の様子を審査しました。今回は新たに開発された競技種目となり、学生たちはマイクロロボットを使ってどのように感染細胞を隔離し、感染拡大を防ぐかについて考察し、アイデアを競いました。

* BEST: Boosting Engineering Science and Technology の略。「工学・科学技術の振興のための」の意味

「日産セレナ」を通じて開発途上国の子どもたちに給食を届ける

「おにぎりアクション」

日産自動車は「日産セレナ」を通じて、NPO法人TABLE FOR TWO International (TABLE FOR TWO)の「おにぎりアクション」にトップスポンサーとして協賛しています。同団体は、開発途上国の子どもたちに給食を届けることを通じ、食の不均衡の解消を目指しています。「おにぎりアクション」は



おにぎりアクションを通じて
提供された給食の様子

おにぎりの写真をSNSなどに投稿すると、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食が届く取り組みです。「日産セレナ」が持つ「子どもの可能性を広げる“家族のためのミニバン”であり続けたい」という思いが、この活動の理念に合致し、2018年より協賛を行っています。「日産セレナ」独自の活動として、1投稿で通常の2倍の10食分の給食を届ける取り組みや、全国の日産のお店にご来店されたお客さまに参加を呼びかけ、3年間で約16万食（おにぎりアクション全体では355万食）の給食を届けました。「おにぎりアクション」は、その活動が評価され、2019年に「ジャパンSDGsアワード」SDGs副本部長（外務大臣）賞を受賞しました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

事業を営む地域への貢献

東日本大震災への対応（日本）

被災地の今を知る従業員向けオンライン講演会を開催

日産は、2011年の東日本震災発生直後からさまざまな支援を行い、従業員による復興支援活動を継続しています。2019年度までは、福島県双葉郡などを訪問し、復興活動に取り組むNPO団体と協力し、防災緑地でのボランティア活動や町内視察を実施してきました。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、被災地への訪問は中止しましたが、被災地の現状や課題を理解するため、浪江町で復興に取り組む社外の方をお招きした従業員向けオンライン講演会を開催、200名を超える従業員が参加しました。

被災地の子どもたちに笑顔を

日産は、被災地の子どもたちが笑顔を取り戻すことを目指して2011年に「日産スマイルサポート基金」を設立しました。遊びや自然体験を中心としたプログラムに加え、フリースクールや居場所づくり事業、地域への理解や愛着を深める学びの場の提供など、年月とともに変化する被災地の課題に即した活動を支援しています。2020年は岩手、宮城、福島で独自に活動している10のNPO団体



のプログラムを支援しました。2021年1月からは、原発事故の影響により長期的避難を余儀なくされ、複雑な課題を抱える子どもたちを支援するため、活動対象を福島県に絞り、同県で事業を展開するNPO6団体への支援を開始しました。

新型コロナウイルス感染症への対応*

新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた皆さまに対して、心よりご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げます。日産は、新型コロナウイルス感染症への対応として、医療機関や自治体への車両や物資提供、ロードサービスの提供に加えて、さまざまな支援を行っています。

* 新型コロナウイルス感染症への対応は以下のページにも記載しています
[>>> P023](#)

子どもたちの絵を同封して医療用エプロンを届ける活動（英国）

新型コロナウイルス感染症が世界中にまん延した2020年春、各地の医療用備品がひっ迫し、必要な人に必要な物資が届けられていない事態が発生しました。日産は全世界のモノづくりの拠点で不足している医療用ガウン、フェイスシールドなどの医療用備品の製造を支援しました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

英国のサンダーランド工場でも、医療用エプロンの製造を支援しましたが、その際に、医療従事者への感謝と応援の思いを込めて、地元の小学生からNHS（イギリス政府が運営する国民保険サービス）のシンボルマークである虹の絵を募集し、医療用エプロンに同梱するという活動を行いました。子供たちから250枚を超える絵が寄せられ、サンダーランド工場で製造した50万枚以上のエプロンとともに病院など医療施設に届けられました。



子供たちから寄せられた虹の絵

オンライン工場見学（日本）

モノづくりの現場を実際に体験してもらう工場見学を行っていますが、感染症拡大の影響から従来の方法では実施が困難となりました。なんとか子どもたちにモノづくりの現場を伝えたいという思いから、2020年7月よりビデオ会議システムを利用したオンライン工場見学トライアルを開始しました。オンライン化により、通常の工場見学では公開できていなかったエリアもカメラを通して見学でき、これまで工場へ訪問することが難しかった遠方の小学校も参加できるようになりました。

フードバンクへの寄付を増額（米国）

新型コロナウイルス感染症の影響による失業や雇用不安で、アメリカでは6人に1人が食事が満足に取れない状況にあるといわれています。NNAの日産ネイバースプログラムで行っている通常のフードバンクへの寄付額を2倍に増やし支援を行いました。この支援により百万人以上の必要とされる人々に食事を届けることができました。



フードバンクを通じて配布される食糧

財団による支援（米国、オーストラリア、ブラジル）

米国では、社会における「多様性」を促進するための教育活動に対して資金提供を行う「日産ファンデーション」を通じて、多くのコミュニティを支援しています。1992年の設立以来、日産ファンデーションは米国全土の150以上のNPO法人に対して1,200万ドル以上の寄付を行ってきました（2021年3月末現在）。2020年度は、全米の27の団体・機関に対して68万ドルの寄付を行いました。豪州日産自動車会社（NMA）は、2016年4月に社会貢献活動を目的とした「日産オーストラリア財団」を設立しました。2017年度より、オーストラリア国内の中小規模の慈善団体に資金提供を行い、活動の拡大や継続を後押ししています。NMAでは、従業員が地域社会貢献のために毎年ボランティア休暇を取得できる制度を導入し、従業員の社会貢献活動を奨励しています。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響より、活動は延期されました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

ブラジル日産自動車会社 (NBA)は2013年に設立した社会貢献活動を目的とした財団「インスティテュート・ニッサン」の活動内容を見直し、従業員のボランティア活動推進プログラムを刷新するなど強化を図りました。リオデジャネイロの主要地域への社会貢献を支援するさまざまなステークホルダーと協業し、環境教育や地域社会活動、オープンイノベーションなど多岐にわたるプログラムを2019年度に策定しました。その1例が、「Innova-san」で大学生を対象に地域社会活動を促進するためのイノベーションプログラムです。2021年1月時点で、リオデジャネイロ州の19の大学から1,495名の学生が参加しています。2020年はすべてオンラインでの実施を余儀なくされましたが、環境、インテリジェントモビリティ、健康の3つのテーマに分かれた21のプロジェクトがスタートし、2021年1月には各テーマで最優秀プロジェクトが決定されました。

公益財団法人日産財団による教育支援 (日本)

公益財団法人日産財団*は「人材育成を通じて、豊かな未来社会の実現を目指します」というビジョンのもと、人材育成事業を行っています。財団事業の柱のひとつは理科教育助成です。子どもたちの論理的あるいは科学的思考能力の向上や、教師の指導力を高める授業研究を目指す小中学校や理科研究会を対象に2年間で1件当たり70万円助成しております。さらに、理科教育助成の助成期間に優れた成果をあげ波及効果が期待できる助成対象者には「理科教育賞」を授与し、助成校相互の研鑽と活性化を図っています。また、

2018年度より、日本国内の小中学校を対象に、理系分野における興味・関心の向上や能力の育成を高めた取り組みに対して、「日産財団リカジョ賞」として褒賞を行っています。

さらに、2019年度より新たに未来人材育成事業がスタートし、その一環として早稲田大学との共同研究に基づく未来のリーダー教室プロジェクトを立ち上げました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送りましたが、2021年度は感染対策を取りながらプロジェクトを再始動させていきます。

* 日産財団の活動に関する詳細は日産財団のウェブサイトをご覧ください

<https://www.nissan-zaidan.or.jp>

オックスフォード日産日本問題研究所による日欧相互理解促進 (英国)

1981年、日産の寄付により英国オックスフォード大学内に設立されたオックスフォード日産日本問題研究所*は、欧州における現代日本研究の主要拠点のひとつとして広く知られ、日欧の相互理解の促進に寄与しています。

* オックスフォード日産日本問題研究所に関する詳細は当研究所のウェブサイト (英語のみ)をご覧ください

<https://www.nissan.ox.ac.uk/>